

小冊子活用の手引き

1. 小冊子作成のねらい

この小冊子は、容器包装リサイクル法に基づき環境大臣が委嘱した「容器包装廃棄物排出抑制推進員（愛称：3R推進マイスター）」が行う、容器包装廃棄物の排出を抑制する普及啓発活動を支援することを目的としています。

3R推進マイスターが市民(子どもを含む)を対象とした環境学習講座や講習会、講演会を実施するとき、資料として、また付録の啓発グッズをツールとして活用するほか、基本的にはその参加者が持ち帰り、自宅などでも活用できるようにと考えて作成しました。

したがって、小冊子自体は市民を対象とした視点（「子ども向け」「大人向け」に分かれています）で執筆・編集し、3R推進マイスター向けにはこの活用手引書を併せて配付するものです。

委嘱された3R推進マイスターの方々は、豊富な知識や経験をお持ちであり、独自のプログラムをもって、講習会や環境学習講座の講師など普及啓発活動にあたっていただいていますので、無論この小冊子の使用を強要するものではありません。

環境省としては、この小冊子は多くの方々がお持ちの情報や現在お使いのアイテムをベースに初めて作成したものだけに、3Rの普及啓発の場で、できる限りこの小冊子をお使いいただき、実践を通じて改善を要すると考えられる点を明らかにしていただくとともに、わかりやすい・楽しい・使いやすいなどといった、普及啓発の対象者の目線に立って、追加することが望ましい資料や情報などについてご意見をいただき、この小冊子が少しでもより良いものとなるよう、引き続き改善に努めて参りたいと考えています。

併せて、この小冊子の作成を通じて、3R推進マイスターの方々がお持ちの情報や知恵を交換する契機となることを期待するものであり、その結果、3Rのより良い普及啓発活動が全国で実践されることを願っております。

2. 小冊子の活用イメージ

3R推進マイスターが実施する講座で活用する場合

(1) 子どもたちを対象とした環境学習講座の教材として

将来を担う子どもたちが、環境負荷の少ない生活様式を身に付け、家族と一緒に継続して実践していくことが何より重要ですが、大人のように理屈を説明しても身に付きません。そこで、子どもたちの遊び心を大切にする“3Rグッズのおもちゃ箱”を目指して作成しました。

第1章「3Rで循環型社会へ」は導入部として位置付け、小学4年生で習う「くらしとごみ」を基礎に、さらに一歩進めて、循環型社会づくりの大切さを、できるだけやさしく、また興味がわくようにまとめました。

次に、第2章「楽しく学ぼう循環型社会」では、子どもがクイズやゲームなどで遊びながら、3Rを含めた循環型社会の大切さを自然に理解できるよう工夫しました。これらの3Rグッズは、全国の環境学習施設、NPOなどで使用されている“子ども向けの環境学習教材”を提供いただき、それを全国で利用できるように一部修正して掲載したものです。このゲームなど啓発グッズには切り取り線を加えていますので、子どもたちが簡単に外して使用できるように工夫しました。

3R推進マイスターが子どもたちを対象とした環境学習講座で講師を務める場合、これらのゲームを使って子どもたちの興味を高めながら、第1章の内容をわかりやすく説明することで、子どもたちの気づきを促すことを期待しています。

(2) 大人を対象とした環境講演会のテキストとして

3R推進マイスターが大人を対象とした環境講演会の講師を務めるとき、どのような資料を配付するか悩む場合が多くあります。そこで、大人向けの「いま、はじめる3R」では、第3章「なぜ3Rが必要なのか？」で実践への動機付けを行い、第4章「身近なアイデア実践集」で行動に移すきっかけづくりとして、誰でも無理せずに行えるさまざまなエコのアイデアをまとめました。

3R推進マイスターの中には、独自の説明資料を作成して配付される方もありますが、いつもと違う視点を紹介していますので、共感して講演に活用できると考えられる部分をコピーして、資料として配付いただき、参加者の3R活動実践への契機となることを期待しています。

(3) 中高生や大人を対象としたマイバッグづくり教室のテキストとして

第4章「身近なアイデア実践集」では、「くらしのアイデア集」とともに、「全国から寄せられたマイバッグのアイデア」と「ふるしきをマイバッグに」といった、市民の皆さんが自主的に3R活動に取り組もうとするときに、直ちに役立つアイデアを多数掲載しました。

例えば、壊れた傘の生地や古くなった衣類を利用したマイバッグの具体的な作成方法を掲載しているので、マイバッグづくり教室のテキストになります。

講座終了後に参加者が持ち帰って活用する場合

環境学習講座・講習会・講演会は、参加者の実践につなげてこそ、意義あるものになります。この小冊子は、講座などで活用して終わりではなく、参加者が自宅に持ち帰り、講座のふりかえりをしたり、毎日の暮らしに活かしてもらうことを目的にしています。3R 推進マイスターは、講座の最後に、自宅での活用を促す働きかけを行ってください。

(1) 子どもたちが家族と一緒に学び合い

子どもたちが自宅に持ち帰った場合、第 1 章は 3 R を含めた循環型社会について学ぶ読み物として、第 2 章は家族と一緒に、クイズやゲームを楽しむために活用できます。子どもたちが講座で学んだことを家族に伝えることで、自らの理解を深めることにつながり、同時に、家族一緒に環境負荷の少ない生活に取り組む契機となることを期待しています。

(2) 大人がくらしの中で取り組めるアイデアを活用

第 4 章は、自宅に持ち帰って読んでも、直ちにくらしに活用できるアイデアばかりです。マイバッグの作成やふるしきの活用法は 1 人でもできるように手順が掲載されているので、気に入ったマイバッグを作成したり、このアイデアをヒントにオリジナルのバッグをつくりたいと思う方もいるでしょう。楽しみながら、3R を実践していただくことを期待しています。

3. 第 2 章「楽しく学ぼう循環型社会」の各プログラム実践方法

(1) 3 択エコクイズ

<ねらい>

わかりやすい 3 択クイズに全員が参加することにより、次の学習ステップへの興味・関心の芽を育てます。

<進め方>

- ・ 3 つの答えは、あらかじめ書いた紙を用意したり、ホワイトボード（黒板）に書いて提示し、子どもたちに見せるとよいでしょう。
- ・ 選択肢に出てくる「おちょこ」「スポイト」「大さじ」などは、実物を見せたり、イラストを描くなど、リアルなイメージができるように工夫しましょう。
- ・ 質問に出てくるペットボトルやレジ袋、60W の電球なども同様に実物を見せるとよいでしょう。
- ・ 解説でも、独自にイラストや図を用意して、各自工夫してください。

- ・ 解説するだけでなく、「自分で調べてみてね」と次の学習ステップへつながる働きかけをしましょう。

(2) 3R ビンゴ

<ねらい>

子どもたちが大好きなビンゴゲームで楽しみながら、自分たちが実際にできる3Rの取り組みにはどんなものがあるのかを学びます。

<準備するもの>

巻末のビンゴシートを切り取って使用

<進め方>

- 1 マスの中の文章を読み、普段の生活で自分がやっていると思う番号を指で押して、向こう側に折り曲げます。進行する人が文章を読み、エコマークやマイグッツなどの実物を見せながら状況の説明をしていくと、イメージがわかりやすいでしょう。解説が長くならないようにテンポよく進めてください。
- 2 シートを裏返し、ホタルの表情を確認します。「なきむし未来ホタル」が入っていたら折り曲げたところを元に戻します。ホタルの下に書いてある内容を読み、どのような取り組みをすればよいのか学びます。
- 3 立っているのは「にこにこ未来ホタル」です。いくつビンゴになっているか発表します。

<ふりかえり>

- ・ 気づいたことを話し合ひましょう。
- ・ ビンゴシートの穴を元に戻して、家に帰ってから家族の人とも一緒にやってみましょうと働きかけてください。

(3) エコはちとためちゃうすごろく

<ねらい>

- ・ 遊びながら、環境にやさしい行動について考えるきっかけをつくります。
- ・ ほかのすごろくのように「早い勝ち」ではなく、「ためれば勝ち」のすごろくです。早くゴールした人も、最後の人ゴールするまで待たなくてはなりません。「スローライフで心豊かに暮らしましょう」という隠れたメッセージがあります。

<準備するもの・遊び方>

- ・ すごろく本体に書いてあります。

- ・ マスに止まるごとに、進行役（または本人）が内容を読み上げましょう。
- ・ 3カ所の「エコ宣言」のヒントは、近くのマスにもあります。

<ふりかえり>

印象に残ったマスの内容や感想を話し合しましょう。

<応用>

- ・ すごろくを使う前に全体をチェック。2カ所の「白又キ」に身近にある公園名を書き入れます。そのほかにも、地域によってはその機会がないもの（たとえば、フリーマーケットなど）があれば、実際に利用できるもの（たとえば、バザーなど）に書き替えます（たとえば、バザーなど）。地域らしさを出して、より親しみやすいすごろくに作り直してください。

（<http://www.greecon.net/> から「エコはちとためちゃうすごろく」名古屋版をダウンロードし、地方版の参考にしてください）

- ・ 準備するものには、サイコロ、コマ、ポイント、マイナス券がありますが、これらを手づくりするところから始めてもよいでしょう。

（例）

サイコロ～6角形の鉛筆に数字を書いても使えます。

コマ～ペットボトルのふた、名前を書いた付箋（ふせん）などでも。付箋は動かないので、屋外のイベントに便利。参加者の名前も覚えられます。

ポイント～牛乳パックを、底の大きさくらいに切り分けます。名古屋市では、小学校給食の牛乳がびんなので、その紙製キャップを集めてポイントやコマにすることも。地域らしいもので工夫しましょう。

- ・ 20～21 ページの買い物ゲームを行った後に、すごろくで遊ぶと、楽しみながら理解が進みます。



- ・ すごろくをパウチ（ラミネート）すると丈夫になり、環境イベント・ワークショップなどでくりかえし活用できます。

（4）買い物ゲーム「どっちこっちスーパー」

<ねらい>

環境にやさしい商品にはどんなものがあるか、そして、その商品を選ぶことがなぜ環境を守ることににつながるのかを学びます。

何を選べば正しいのかということより、それぞれが選んだ理由についての話し合いを大切にします。環境にやさしい買い物への興味と関心を育てます。

< 準備するもの >

7 種類×2 の品物カード（巻末のカードを切り取る）、お買い物表（21 ページのものを人数分印刷）、筆記用具

< 進め方 >

- 1 机の上に 7 種類の品物カード（A と B）を並べます。準備が大変ですが、実際の品物を用意してもよいでしょう。野菜は旬のものに変更してください。
- 2 「買い物をするとき、あなたはどんな視点で品物を選びますか？」と、例（値段、ブランド、おいしさなど）を挙げて問いかけます。
- 3 買い物スタート！ 参加者は、A と B のどちらを買うか選んで、お買い物表に記入していきます。
- 4 A と B の品物をどんな理由で選んだかについて、みんなで（多い場合はグループに分かれて）話し合います。
（例）値段、品質、安全、包装の多少、リサイクル品、省エネ……
- 5 答え合わせ。環境にやさしい品物はどちらかを冊子のヒント（20 ページ）を参考に説明します。
- 6 ふりかえり。環境にやさしい買い物のまとめをします。
最後に、「今度、自分で買い物に行くときは、何に気をつけるかな？」と問いかけます。

< 応用 >

- ・ この買い物ゲームを行ってから、「エコはちとためちゃうすごろく」を行うと、楽しみながら理解が進みます。
- ・ グリーンコンシューマー名古屋では、答え合わせをオリジナルの寸劇で行っています。登場するのは、安くて便利なものが大好きな主婦と、マイバッグを持ち、環境に関心のある主婦。エコマークやフェアトレード・地球温暖化の説明なども加わり、楽しみながら、買い物と環境のつながりに気づくことができます。寸劇を見た後、子どもたちは 7 種類の品物について、今後はどちらを選ぶか理由も添えて「ふりかえりシート」（ ）に記入してまとめとします。
- ・ 次の環境学習の展開として、実際に環境にやさしい商品を扱っているお店探検に行くのもよいでしょう。

< 参考 >

沖縄リサイクル運動市民が考案した買い物ゲームもあります。冊子も発行され、ゲームキットを含めた CD-ROM もついているので、気軽にプログラムに取り組みます。

「ECO・エコ買い物ゲーム ごみを減らす体験学習プログラム」（合同出版・定価 2,600 円 + 税）

<ふりかえりシートの例>

どっちこっちスーパーを体験して

あなたが今後、選びたい商品に をつけて、その理由も書いてください。

- | | | |
|---------------------|---------------|----------------|
| 1 電池
(理由) | A: 使い捨て電池 | B: 充電式電池 |
| 2 牛乳
(理由) | A: 紙パック | B: びん |
| 3 きゅうり
(理由) | A: 1本 25円ばら売り | B: 10本 200円袋入り |
| 4 ブロッコリー
(理由) | A: 外国産 | B: 国内産 |
| 5 チョコレート
(理由) | A: フェアトレードチョコ | B: ミルクチョコ |
| 6 トイレットペーパー
(理由) | A: 100%再生紙 | B: 100%バージンパルプ |
| 7 傘
(理由) | A: ビニール傘 | B: 修理可能な傘 |

あなたは今後、買い物バッグを持ちますか？

環境を守るために、あなたが今後できることはありますか？
また、これから環境について調べてみたいことはありますか？

(5) チャレンジ 3R

<ねらい>

- ・自分がどれだけ環境にやさしい生活をしているか確認。同時に、やっていなかった行動に着目し、なぜやってなかったのか、どのようにすれば実践しやすくなるのかを考えます。
- ・自分の行動が環境を守ることに繋がっていることに気づきます。

<準備するもの>

筆記用具

<進め方>

- 1 一斉に読みながらチェックしても、各自のペースでチェックしていても構いません。
- 2 みんながどの程度できているかを挙手などで確認。
- 3 各項目について、23 ページを参考に解説をします。独自のデータや図を用意してもよいでしょう。

(6) 発掘！エコ文具

<ねらい>

- ・身近にあるエコ文具の存在に気づきます。
- ・環境マークの意味を知り、意識するきっかけをつくります。
- ・自分たちの買い物が資源を大切にすることにつながっていることに気づきます。

<準備するもの>

ワークシート (25 ページ)

<進め方>

- 1 エコマークやグリーンマークのついた文具がいくつあるか探して、ワークシートに記入します。会場で実施する場合は、さまざまな文具を用意しておいて、その中から探すとよいでしょう。
- 2 エコマーク、グリーンマーク以外のマークも見つけます。
- 3 発掘したエコ文具やマークを発表。マークの意味を説明します。

<参考>

こども環境活動支援協会では、次のようなプログラムを実施しています。

<http://www.leaf.or.jp/>

各社の取り組みをクイズや映像で紹介し、エコ文具の循環を伝えます。



① 事前に身の回りにあるエコ文具を調査してもらいます。

エコ文具って何？



紙とペットボトルのリサイクル

② 古紙が再生紙になるまでを説明します。



③ リサイクル素材からエコ文具ができるまで、また、どんなエコ文具があるのか紹介します。

エコ文具に表示されている様々なエコラベルを紹介します。



エコ文具クイズ



④ エコ文具がみんなの手に届くまでの流通を説明します。



こんなエコ文具があつたらいいな

⑤ グループに分かれて、新しいエコ文具を企画してもらいます。



⑥ 考えたエコ文具を企業の人に発表します。



(7) 3R サイコロ

ワークショップの最初の自己紹介やアイスブレイク()の時間に、参加者が順番にサイコロを振ってエコ自慢をします。

アイスブレイク：セミナーやワークショップの最初に、初対面の参加者同士の緊張をほぐし、コミュニケーションのきっかけをつくるために行うゲームやクイズ、運動などのこと。

<ねらい>

- ・ 参加者同士の緊張をほぐし、コミュニケーションのきっかけをつくります。
- ・ エコへの関心を高めます。

<準備するもの>

3R サイコロ(巻末のものを切り取って組み立てる)

<進め方>

- 1 人数が多い場合は、10人以下のグループに分けます。
- 2 参加者が順番でサイコロを振り、出た目に合わせて、自分(わがまち、わが家)のエコ行動を紹介します。

答えられないようなら、進行役が冊子(26~27ページ)を参考にヒントを出しましょう。まだ行動していない人は、こんなことをやってみたいと宣言するのもいいですよ。

<応用>

独自のプログラムに合わせて内容を変えたり、サイコロ型のクッションなどで大きめのオリジナルサイコロをつくれれば、さらに盛り上がるでしょう。

4. 組み合わせた場合のプログラム例

(1) 3R ビンゴ+エコはちとためちゃうすごろく

- 1 ビンゴシートを各自切り取り、ゲームをします。
- 2 ビンゴゲームで盛り上がった後に、子どもたちを少人数のグループに分け、各グループで、「エコはちとためちゃうすごろく」に取り組みます。(このとき、すごろくは主催者が用意して、子どもたちに配付した小冊子からすごろくを切り離すことはしません)

各グループには大人が一人ずつ進行役として入り、子どもたちに問いかけな

がらゲームを進めます。

- 3 全員がゴールしたら、最後に、講座のまとめをします。また、小冊子をおうち
に持ち帰り、家族やお友達とやろうねと、次の展開を意識させます。

(2) 3Rサイコロ+買い物ゲーム+エコはちとためちゃうすごろく

- 1 子どもたちを5人前後のグループに分けます。
- 2 3Rサイコロをグループ数だけ用意しておき、各グループで順番にサイコロを
振って自己紹介をします。
- 3 買い物ゲーム「どっちこっちスーパー」を行い、グループごとにAとBの品物
をどんな理由で選んだかについて話し合います。各グループで意見をまとめて、
発表します。
- 4 答え合わせをします。
- 5 各グループですごろくを行い、理解を深めます。

(3) 3択エコクイズ+ふるしきをマイバッグに+チャレンジ3R

- 1 レジ袋に関する3択エコクイズを行います。
- 2 第1章8ページの「レジ袋の一生」の図などを活用し、レジ袋の必要性につい
て考えます。
- 3 46~48ページの「ふるしきをマイバッグに」を参考に、みんなでふるしきバッ
グをつくってもよいでしょう。その場合は、実際に品物を「ふるしきバッグ」
と「レジ袋」に入れて、持ちやすさ・使いやすさなどを比較してみましょう。
- 4 最後にチャレンジ3Rを行い、自分が環境を守るためにできることを考えます。

5. 最後に

3R推進マイスターの方々が3Rの普及啓発の場でこの小冊子をお使いいた
き、改善を要すると考えられる点、その他お気づきの点がございましたら、環境
省の担当までご連絡願います。

また、講演会や環境学習講座などの普及啓発活動にお使いの資料やグッズなど
で、この小冊子に掲載したらよいとお考えのものがございましたら、環境省の担
当までご送付いただきますようお願いします。

< 情報提供先 >

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室

容器包装リサイクル法（普及啓発） 担当

〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2

電話：03-5501-3153(直通) FAX：03-3593-8262 E-mail：YOURIHOU@env.go.jp